(桜川市行政評価システム) 記入年月日 平成28年度 事務事業評価表 A (平成27年度 の実績評価) 月 15 事業区分 事務事業名 生活支援相談(心配ごと相談)事業 新規/継続 継続 事務事業No. 020603000031 政策体系上の位置付け 単独/補助 母神 040501 所属課 総合計画の施策名 O2O6 高齢者福祉の推進 主要事業 机象位 高齢福祉課 市長マニフェスト 02 安心と安らぎのある健康福祉社会づくり 対象外 政策名 未来PJ事業 高齢福祉グループ 施策名 06 高齢者福祉の推進 対象外 グループ 合併建設計画事業 系 基本事業名 03 高齢者相談の充実 対象外 財務会計上の位置付け 事業期間 会計 款 事業 一般会計 単年度繰返し 年度~) 細 予算科目 01 03 01 02 02 00 老人福祉総務事業 □⇒ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入 法令根拠 事務事業の現状把握(その1) (D_0) (1) 事務事業の概要 ①事務事業の概要(事務事業の全体像) ②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 担当者が行う業務の手順】相談員の委嘱(任期2年)、委託契約事務、 高齢者等の身近な相談に応じ、適切な助言・援助を行って、高齢者等の生活支 援をする事業であり、桜川市社会福祉協議会に委託している。平成22年度から、相談件数の減少等に伴い、岩瀬・大和・真壁地区で行っていた相談日を週 委託費の支払・精算事務、対協との連携 1回より月2回にして、時間についても午後1時30分から3時30分に三地 区統一して行った。相談員の委嘱についても岩瀬地区は8名より4名に、大和地区は6名より4名、真壁地区は2名にした。 平成27年度からは月2回を月1回に変更し、今後の事業展開についての見直し も検討していく。平成28年度からは事業休止。 (2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、 指標値の推移 28年度 29年度 30年度 26年度 27年度 ①手段 (担当者の活動内容) (活動量を表す指標) 単位 4)活動指標 (実績) (実績) (計画) (目標) (目標) 開催回数 61.00 35.00 0.000.000.00 担当者が行う業務の手順】相談員の委嘱 0,00 0.00 0.00 0.00 0,00 (任期2年)、委託契約事務、委託費の支払・精算事務、社協との連携 0.000.000.000.000.000.00 0.00 0.00 0.00 0.00 27年度 28年度 29年度 26年度 30年度 (誰、何を対象にしているのか) 単位 ②対象 ⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標) (実績) (実績) (計画) (目標) (目標) 高齢者人口(65歳以上) 12,188.00 12,757.00 12,800.00 13,000.00 13,100.00 高齢者 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.000.000.000.000.0027年度 30年度 26年度 28年度 29年度 (この事業によって対象をどう変え (対象における意図の達成度 ③意図 ⑥成果指標 単位 を表す指標) るのか) (実績) (実績) (計画) (目標) (目標) 件 相談件数 1100 1400 0.000.000.00心配ごとを相談することにより、悩みから 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 解放される。

((3) 投入量(事業費)の推移				26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	期間限定
					(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)	総投入量
投入	事業費		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
		財	県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
		源	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		内訳	使用料・手数料		0	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	326	193	0	0	0	0
	Ш		■業費計(A)	千円	326	193		0	0	0
	人	正規職員従事人数		人	1.00人	1.00人	0.00人	人00.0	0.00人	
		述べ業務時間		時間	30,00	30.00	0.00	0.00	0.00	
	費		、件費計(B)	千円	87	87	0	0	0	
		<u>`</u> ータ,	レコスト(A)+(B)		413	280	0	0	0	
		27年度事業費 実績(千円)				28年度事業費 予算(千円)				
	13	委託	料	193						
事										
業										
費										
σ										
内	ı —									
訴										
	_									
	\vdash				合 計	103			스 타	0
	ل	合計 1			193			合 計	0	

0.00

29年度の事業内容

0.00

0.00

0.00

30年度の事業内容

0.00

※下記に該当する事業は、年 度ごとに事業内容を記入する

28年度の事業内容

- ・主要事業・市長マニフェスト

(4) 当該年度の実施内容

- · 未来PJ事業
- 合併建設計画事業

事務事業名 生活支援相談(心配ごと相談)事業	事務事業No.	20603000031	所属課	高齢福祉課								
【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2) (5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開	やされたのかつ 関心時期ある	いけら年前と比べてどる	う亦わったのか?									
				 :平成21年度								
相談ごとを抱えた高齢者の支援のため開始した。岩瀬・大和地区は桜川市社会福祉協議会に委託し実施しているが、真壁地区についても平成21年度 より委託実施することとなった。相談件数は減少傾向にあり、相談受付する機関も消費生活相談センター等がある。平成22年度から、相談件数の減												
少等に伴い、岩瀬・大和・真壁地区で行っていた相談日を週1回より月2回にして、時間についても午後1時30分から3時30分に3地区統一して												
行った。平成27年度は相談日を各地区月1回に変更する。												
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?												
専門的な相談がしたい												
(7)前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容												
【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。												
	評 価 項 目	+ズへハブハフかの〉										
①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結び	· ノくか ? 息凶 9 ることが結果に制	50つい(いるか?)										
見直し余地がある 行政政策としての窓口は必要だが、	見直し余地がある 行政政策としての窓口は必要だが、高齢者に対してだけの窓口としてはふさわしくない。											
妥 当 ② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?)(法定受託事業はその名称)												
性 見直し余地がある 公共性関与は必要だが、高齢者に対	すしてだけの窓口としてはふる	らわしくない。										
③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状力	(準とあるべき水準との差異はなし	ハか?何が原因で成果向上	が期待できないのか?)								
「向上余地がある 年々、受付件数が減少している。し	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	できるだけの環境を整	えるのは難しい。									
	「向上余地がある 「年々、受付件数が減少している。しかし、幅広い行政相談に対応できるだけの環境を整えるのは難しい。											
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)											
有												
影響無 等に助力野との恋口を広く周知9年はみ廃止しても同趣はない。												
⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性がありますか?(市以外の取り組みも含む))												
(他に手段がある場合) 🖒 具体的な手段、事務事業名 各専門相談窓口												
「統廃合ができる 消費生活センター・行政相談窓口・包括支援センターなど目的に応じた窓口対応。												
	* キャかのゆのさまままして?		±1,50)									
⑥事業費・人件費の削除余地(成果を下げずに事業費を削除できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) 												
率 性 削減余地がある 事業を休止する。	削減余地がある事業を休止する。											
公 ⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者	皆に偏っていて不公平ではないか	?受益者負担か公平・公止	こなっているか?)									
平 性 見直し余地がある 事業を休止する。												
【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算 (1) 1次評価者としての評価結果	『への反映 <i>》</i> │(2) 全体総括(振り返り) 反省占)										
(1) 「人の中間自己してのの中間加来	平成27年度は積極的な広報		域らしての実施とし	たが、受付件数は								
①目的妥当性 □ 適切 ■ 見直し余地あり	増えなかった。また、相談内	内容は悩み相談(愚痴)	のような内容で特に	解決策を見出すよ								
②有効性 □ 適切 ■ 見直し余地あり → 日直し余地あり □ 第切 ■ 目直し余地あり → □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	うなものではないことから ¹ とで困ったという状況が起る	F成28年度より休止とす これげ復注させるが、そ	する。今後、相談窓 うでなけれげ廃止σ	口はなくなったこ								
③効率性 □ 適切 ■ 見直し余地あり		11は反心ででもが、 こ	ノ (なければ発圧)	W 6 JEIC 9								
(3) 今後の事業の方向性	(海粉同祭司)		(4)改革•改	(善による期待成果								
□ 終了 □ 継続	(複数回答可)] 目的の再設定 [] 効率性の改善		木止の場合は記入不要)								
] 有効性の改善 [公平性の改善		コスト								
□ 廃止 ■ 休止 □ 現状維持 □] 統廃合ができる [] 連携ができる 丿		減 維持 増加								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解	決策											
(こ) 以下, 以口 こハッリ ひ上 いがり 、 いかに (土) ししいか	~ V-1		成維									
			果 持									
			低下	$ \times \times $								
	(6)事務事業優先度評価結果											
	成果優先度評価結果 -											
			コフレッツが原生さ	学型価結里 _								
			コスト削減優先度	26半111111111元末 -								
【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項 (1) 課長評価	(2) 部長確認及び評	価 (課長評価により、		のが必要な担合)								
		1回 (謀長評価により) 知し35回開催するが23										
課長雄総俊の評価 <u>確認欄</u> 専門職による相談機関も設置された為、休止とする。												
C A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 C:終了、廃止、休止 C:終了、廃止、休止 C:終了、廃止、休止 C:終了、廃止、休止 C:終済(の) につかが (を) についません (を)	確認											
B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出												